<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">3学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>地域包括支援論</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 退院後も医療的ケアや終末期ケアを必要とする患者と家族の退院支援が理解できる。
2. 患者やその家族の特性やニーズに応じた、病院内外の各専門職との連絡・調整方法が理解できる。
3. 地域・在宅看護実践に向けた多職種連携・協働における看護師が果たす役割、多職種でかかわる意義が理解できる。
4. 在宅移行期や在宅チーム医療において生じうる倫理的問題と、その解決方法について分かる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">〈事前学習〉
・退院支援・退院調整に関する施策や動向、現在の課題について文献等からまとめておく。 様々な社会資源のサービス内容、他職種の役割、法律、報酬等。
・訪問看護ステーションの開設や管理運営に関する法律や制度、診療報酬・介護報酬の体系について。

第1回
1. 地域包括支援とは
1）地域包括ケアシステムと地域共生社会

第2回～第3回
1. 地域・在宅看護マネジメント
1）地域・在宅看護マネジメントとは
2）多様な場における地域・在宅看護マネジメント

第4回～第5回
1. 病院内外の多職種との連絡・調整方法の実際とチームアプローチ方法
1)地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働
2)医療・福祉・介護関係者との連携・協働
3)医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働

第6回～第7回
1. 地域・在宅療養者の倫理的問題、その解決方法の提案
1)地域共生社会を実現するために

第8回
終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基礎　(医学書院)
2. 系統看護学講座　地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">住み慣れた地域で病気や障害をもちつつも自分らしい生活を最後まで続けることができるように、どのような資源を活用し、誰といつどのように連携をとっていくのか、またそのチーム医療における看護師の役割とは何かについて具体的に考えていきます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">3学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>精神看護方法論・演習
（事例展開）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 精神障害をもつ対象者の身体的・社会的・精神的特徴とその家族について理解する。
2. 安心して療養生活を送り、社会復帰できるよう援助するために必要な看護師の役割を理解する。
3. 社会におけるサポートシステムを理解する。
4. 自己理解のためのプロセスレコードを記載し、精神看護におけるアプローチの特徴を理解する。
5. 精神障害者の疾病・症状・問題の特徴および治療法をふまえ、看護過程の展開方法が理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回（講義）
ケアの人間関係
ケアの前提
ケアの原則
ケアの方法
患者－看護者関係でおこること
チームのダイナミクス
第3～4回（講義）
精神科における看護の役割
入院治療の意味を理解する
治療的環境をつくる
安全を守る
緊急事態に対処する
回復を助ける
第5～6回（講義）
身体をケアする
精神科における身体のケア
身体にあらわれる心の痛み
精神科の治療と身体のケア
日常から気をつけておきたい身体合併症
精神科における身体のケアの実際
睡眠の援助
心的外傷患者への身体からはじまるケア
第7回（講義）
地域における精神看護
地域で生活するための原則
生活を支える制度
地域での看護の実際
第8回（講義）
接近法
プロセスレコードについて
第9～10 回（講義）
精神障がい者を理解する視点
オレム・アンダーウッド看護論
精神障がい者のアセスメント
看護援助の実際
第 11～12 回（演習）
統合失調症患者の看護過程の展開
グループワークおよび発表
第 13～14 回（演習）
双極性障害患者の看護過程の展開
グループワークおよび発表
第 15 回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">課題レポート 筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 （医学書院）
2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 （医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 看護実践に活かすプロセスレコード
―良いかかわりができるための具体展開と事例集― （廣川書店）</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">本講義では、疾患、精神科医療の歴史的背景、関連する法律、精神看護に関する基本的な知識を、これまでの講義を通して学生の皆さんがある程度身につけられていることを前提に進めていきます。
主に統合失調症の患者様の看護において、急性期と慢性期での関わりの違い、入院から退院までを視野に入れた看護を理解してもらいたいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">3学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>看護管理</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 病院組織・経営における看護部門の役割と機能を、法制度や政策との関連から理解する。
2. 看護管理部門の基本的役割（人事管理・業務管理・職員教育）とスタッフナースに求められる管理的役割を理解する。
3. 看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて理解する。
4. 組織的な安全管理体制の観点から医療安全を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
1. 看護とマネジメント
1）看護管理学とは
2）看護におけるマネジメント

第2回（講義）
1. 看護ケアのマネジメント
1）看護ケアのマネジメントと看護職の機能
2）患者の権利の尊重
3）安全管理

第3回～4回（講義）
1. 看護職のキャリアマネジメント・
1）キャリアとキャリア形成
2）看護職のキャリア形成
3）看護専門職としての成長（社会化）
4）タイムマネジメント
5）ストレスマネジメント

第5回～6 回（講義）
1. 看護サービスのマネジメント
1）組織目的達成の
看護サービス提供のしくみづくり
2）人材マネジメント
ワークライフバランスを促進する働き方
2. マネジメントに必要な知識と技術
1）マネジメントとは
2）組織とマネジメント

第7回（講義）
1. 看護を取り巻く諸制度
1）看護職の教育制度
2）より専門性の高い看護職の養成および認定制度
3）就業場所別就業者数
2. 看護政策と制度
1）看護行政の組織
2）製作過程

第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（100 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　　看護管理　看護の統合と実践 1（医学書院）
2. ナーシンググラフィカ　医療安全　（メディカ出版）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">看護管理とは看護サービスの管理です。看護部長や看護師長だけが行うものではなく、看護サービスを提供する立場にある人は、全員看護管理の一部を担っているのです。新人看護師も看護管理に参加していることを知ってほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">3学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>災害看護</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 災害発生後に人々や社会に生じる健康問題・課題と看護の役割について理解する。
2. 災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回
災害看護の歩み
救護活動としての災害看護のはじまり
災害体験から求められる看護の役割の拡大
災害医療の基礎知識
災害の定義
災害の種類と健康障害
災害医療の特徴
マスギャザリングとNBC 災害への対応
災害と情報
災害対応にかかわる職種間・組織間連携
災害看護と法律
近年の災害における課題と対策

第3回
災害看護の基礎知識
災害看護の定義と役割
災害看護の対象
災害看護の特徴と看護活動

第4～5回
災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護と実際
急性期・亜急性期
慢性期・復興期
静穏期
トリアージ

第6回
避難所と仮設住宅
災害とこころのケア
被災者のこころのケア
遺族のこころのケア
被災救援者のこころのケア
救援者のストレスとこころのケア

第7回
被災者特性に応じた災害看護の展開
1)子ども
2)妊産婦
3)高齢者
4)障害者
5)精神障害者
6)慢性疾患患者
7)在日外国人

第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">既習知識である急性期の看護を土台にして理解を深めて下さい。
但し、施設内における救急医療との違いを踏まえて、災害時における医療看護の困難性・特殊性をイメージし体験を通して、自分のものにして下さい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">3学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1～2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>看護研究・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・45 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 受持ち患者を通して経験した看護を振り返り、事実から捉えた看護の視点を、文献の理論と照らし合わせて明確にし、看護に対する考えを深めることができる。
2. 論文としてわかりやすくまとめることができ、効果的に発表できる。
3. 他者のケーススタディを論文として評価できる。
4. 指導過程の中で、担当教員と共に看護観が語れるようになる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第１回　（講義）
１．事例研究（ケーススタディ）とは
２．全体ガイダンス
（ケーススタディの概要）
演習の進め方、全体計画
３．ケース選択届の作成と提出

第２回（講義・演習）
１．研究計画書の作成
２．疑問から課題へ
３．研究テーマ絞り込み
４．文献検索・文献検討　【個人使用端末】

第３回（演習）
１．研究計画書　【個別指導】
２．文献検索・文献検討【個人使用端末】

第４回～12 回（演習）
１．研究計画書　【個別指導】
２．文献検索と文献検討【個人使用端末】
３．研究論文（集録）作成【個別指導】

第 13 回（講義・演習）
１．研究論文（抄録）作成
２．発表準備
スライド作成、発表原稿作成

第 14 回～16 回（演習）
１．抄録作成　【個別指導】
２．スライド作成

第 17 回（講義・演習）
１．研究発表の進め方
当日の役割分担、役割内容
２．評価について
３．発表準備
スライド作成、発表原稿作成
【個別指導】

第 18 回～23 回
１．研究発表の実際
２．研究論文の評価の実際
３．研究論文（集録）修正
４．まとめ</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">研究論文作成・発表含む（100 点）　※評価表に基づき評価する</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）
2. 楽しくなる看護研究（メヂカルフレンド社）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">臨地実習と並行して行う授業です。計画的に早め早めに取り組みましょう。自分の看護の実践をしっかりと振り返って、意味づけていく過程を大事にしてください。文献検討する力を身につけ、担当教員と十分に語り合うことをとおして、自己の看護観を明確にして欲しいと思います。「語り合う」時間がとても重要な意味をもたらします。提出マナーを守り、誠実に取り組む姿勢を期待しています。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">3学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1～2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>看護技術統合・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・45 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 多重課題における臨床判断能力、リスクマネジメント能力と適切な看護技術を習得する。
2. 倫理的判断能力を養い意思決定を支える援助を習得する。
3. 卒業前の看護技術の到達度を認識し、自己の課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">〈講義概要の説明〉
第1回〔講義 45 分〕
〈1. 対象者の状況に応じた点滴静脈内注射及び輸液管理の方法〉
第1回
1)援助方法の決定
(1)確実な技術の提供
(2)対象者の病状・症状に応じた援助方法の選択
(3)輸液療法中のセルフケアへの援助
(4)起こりうるリスクをふまえたコミュニケーション
第4・5回 〔技術試験〕
第6回 技術試験のリフレクション

〈2. 複数受け持ち時の看護実践(1)〉
第2～3回
1)受持ち患者ひとり一人の健康問題・看護問題の把握
2)複数受け持ち時の1日の行動計画立案

〈3. 患者・家族の意思決定が困難な場面での対応〉
第7回〔講義〕
1)倫理的判断
(1)状況および患者・家族の思いの理解
(2)倫理的視点からの問題分析
(3)倫理的問題解決のためのゴールの設定
(4)倫理的場面での対応の仕方
(5)意思決定への支援
第8～9回
2)倫理的行動
倫理的判断に基づく援助方法の立案
第10回
意思決定が困難な場面のロールプレイング・リフレクション
第11～12回
意思決定への支援の評価

〈4. 化学療法1日目でのアナフィラキシーショックを起こした場面での対応〉
第13回〔講義〕
1)アナフィラキシーショックに関するリスクの予測
2)緊急時のチームの連携と看護師の役割
3)同室者・家族への対応
4)急変時の記録の記載方法
第14回～16回
シミュレーション・リフレクション

〈5. 複数受け持ち時の看護実践(2)〉
3)時間切迫の状況下での多重課題への対応
第17回〔うち 45 分は講義〕
第18～21回〔技術試験〕
第22回
技術試験のリフレクション

〈総まとめ〉
第23回(45 分)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">ルーブリック評価 100 点(うち、点滴静脈内注射の看護技術試験 20 点、多重課題時の看護 30 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 (医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)
3. 系統看護学講座 別巻 がん看護 (医学書院)
4. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">この授業は、統合看護実習前後の時期となります。各個人が実践に応じた思考力、判断力を向上させるために、自己学習とグループワークを併行しながら進めて下さい。そして、自分の意見をもち活発なディスカッションを行うこと、また実践をしっかり振り返り主体的に学習することで、効果的なリフレクションにしていきたいと思います。
卒業後の自分の姿を意識し有意義な学びへとつなげて欲しいと思います。</td></tr>
</table>